

子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくり 播磨町放課後子ども教室「のびっつと」を紹介します

▼問合せ 生涯学習グループ ☎079(435)0565

町内の小学3年生の児童を対象に、播磨町放課後子ども教室（愛称のびっつと）が6月よりスタートしました。

同教室は年々参加者が増加してきており、5年目の今年は各校ともに対象者の半数近くが参加。全体では135人となっています（今年度は7月末で受付終了）。子どもたちは、小学校内外の施設で、地域のボランティアの方々にあたたかく見守られながら元気に活動しています。

●放課後子ども教室とは？

放課後子ども教室は、放課後や週末などに小学校の空き教室などを活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を設け、地域の人たちが指導者やボランティアとして参画しながら、子どもたちと一緒に、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動などを行う取り組みで、平成19年度に文部科学省が創設しました。現在、全国の各市町村でこの取り組みが広がっており、それぞれの実情に応じて実施されています。

小、蓮池小、播磨西小、播磨南小）で実施しています。

対象は、小学3年生の児童。子どもたちの安全・安心な居場所づくりを総合的に進めるという視点から、学童保育所との連携を行っており、学童保育所に入所している児童も参加することがあります。

活動場所は各小学校の体育館・運動場及び最寄りのコミセン、中央公民館、福祉会館などの公共施設で、活動内容に応じて設定しています。今年度は、6〜12月の期間に、1校につき11回（月2回のペース）の実施を予定しており、子育て支援ネットワーク「ういっくす播磨」、スポーツクラブ21はりま、町立図書館、その他各種団体や地域の方々に、それぞれの専門や特技を生かして、子どもたちにかかわっていただいています。

▼ウキウキしながら集合する受付の様子（蓮池小学校）



▲バルーンアート（播磨南小学校）



▲タグラグビー（播磨西小学校）



▲シャーベット作り（播磨小学校）

●地域みんなまで育てる

子どもたちは、地域みんなで見守り、育てていくことが大切です。いろいろな体験活動や地域の方々のふれあいを通じて、子どもたちの自主性や創造力、社会性が育まれています。また一方では、指導にあたる地域の方々も子どもたちのかかわりから元気をもらっています。放課後子ども教室の取り組みの中に、子どもたちの成長と地域の教育力の向上が密接に絡み合う好ましいサイクルが生まれています。



▲ストラップ作り（播磨小学校）

==播磨町教育講演会==

好ましい人間関係づくりのためのコミュニケーションのあり方



▲講師の川崎宗夫氏

8月26日、残暑厳しい中、播磨町全教職員対象の教育講演会を中央公民館で実施しました。160人の参加がありました。

今年、川崎宗夫氏を講師に迎え「好ましい人間関係づくりのためのコミュニケーションのあり方」について、ご講演をいただきました。川崎氏は、人材育成コンサルタント、イベントプロデューサー、まちおこしアドバイザーとしても活躍されている吉本興業チーフプロデューサーです。吉本興業の有名なタレントとのエピソード、それぞれのタレントの個性を見極めた育成法、芸人として大成する10のポイントなどもまじえた楽しく心に響く内容でした。

人間関係づくりで大切なこと

- ・あいさつが基本。まずは、あいさつから始める
- ・「ありがとうございます」という感謝の気持ちが大切である
- ・目と目を合わせて話す
- ・人の個性をよく見ること
- ・芸は身を助ける、特技は人を助ける
- ・時には相手の言葉を聞き流すゆとりも必要である（すべてを受け止めては自分の身がもたない）
- ・泣き（シクシク=36）+笑い（ハッハ=64）=100、100歳まで生きる元気の素
- ・人間を大切に

★特に仏教にある〈面授〉という言葉をとえに、本当の情報や思いは人間と人間が向き合っ、表情や身振り手振りを加え、肉声で語る中で伝わるものである。

これは、当たり前前といえば当たり前ですが、改めて私たち教職員に人間関係の築き方の基本をご示唆いただきました。

教育は授業をはじめとして、子ども、保護者、地域の方々など人とかかわることで成り立ちます。すべての人を大切にしながらフェイスツーフェイスの心かよいあう人間関係づくりを日々行うことが信頼関係へつながることを再確認した1日でした。

▶問合せ 学校教育グループ ☎079(435)0545